

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会
第 73 号
2017 (平成29) 年4月15日 (土)

寺子屋・こども論語塾は心の故郷

おとなじゅくせい いけがや まさゆき
大人塾生 池ヶ谷 昌之

教師、生徒、親御(保護者)さん、論語、お寺、お坊さん、座禅そして私たち大人の塾生。この豪華キャストが創り出す独特な空間の魅力にはまり、通い続けて2年半になります。55歳になる大人が本来こどもを対象とした塾に月に一回とはいえ、ほぼ半日を費やし何故通うのか。明確な答えはございませんが、ひとことで言えば楽しいからだと思います。子供たちが真剣に論語を素読する姿はそれだけで緊張感漂う舞台になります。

論語学而第一 学びて時に之を習う、亦説ばしからずや。朋遠方より来る有り、亦楽しからずや。人知らずして愠みず、亦君子ならずや。私はこの章句だけを毎日反芻し続けもう30年になります。4年前に「えんゆう相続」という社名の会社を立ち上げました。「えんゆう」とは「朋遠方より来る。」の意味で相続を学び続けるという願いを社名に込めました。正直儲かってはいませんが、不思議なことに同じ志を持つ仲間が全国にたくさん出ました。畏怖(おそれかこまること)すべき論語の力です。唱え続けるといつの間にか周りにすごい人が集まってきました。これは本当のことです。この論語塾に参加するきっかけも私の論語の話に耳にした高島世話人代表との出会いによるものです。

論語のどこが素晴らしいのか……。それは人にとって最も大切な「親孝行」について書かれている書物であるからだと思ひます。

孝弟なる者は仁を為すの本。人は親孝行する子供の姿に感動し、魂が震えます。人は親孝行するために生まれてきて、最後はお父さん、お母さんの元へ帰るのです。

新田先生の主宰する「寺子屋・こども論語塾」には親孝行な子供たちが集まってきました。子供たちにとって親御さんと共有する論語塾の思い出は一生の宝物であり、かけがえのない心の故郷になると思ひます。このような教育こそ次世代へ相続しなければならぬものの一つであるとしみじみ思ふのです。

じゅく せい しょう かい
塾 生 紹 介

ゆきむら ひでこ 氏 名 やまざき さくら さん
幸村 秀子 さん 氏 名 山崎 さくら さん

主婦 幼稚園名 桑園幼稚園・年長

心理学 好きな教科 歌や体を動かすこと

ガーディニング 趣味(好きなこと) 折り紙・シール遊び・ピアノ・自転車など

今を頑張る人 尊敬する人 お父さん・お母さん・いとこのえいた・りみ

その他

フィットネスクラブに通って、心と体を鍛えていて、好きな食べ物は柿とのこと。また、塾生のみなさんが礼儀正しく、論語に対して主体的に発言していることに感動しているそうです。

ピアノが得意とのこと。好きなものは、パイン・とうきび・おすし・お肉だそうです。坐禅は難しいけれど、論語の素読は楽しいとのこと。でも先生から見れば背筋が伸びていて、とても上手ですよ。

先生からのコメント

幸村さんは吃音(どもりのこと)カウンセラーとして30年以上前から今も教室を開いて関わっているそうです。吃音は言葉が急に出なくなったり、オットットとつまずいたりしますが、病気や障害ではありません。もし、お友達に吃音する人がいましたら、「仁の心」をもって仲良くしてあげてほしいと話してくれました。幸村さんの心温かい優しい気遣いが見て取れます。日本人で吃音発症者は約120万人いて原因はわかっていないのだそうです。

さくらさんは論語塾に通い始めて約1年になります。最初の頃はじっと座ってられないこともあったようですが、今ではしっかり先生の話の聞けるようになり、大事なところは自分で線を引いたりしているそうです。それってすごいことですよ。ご両親と一緒に参加している、さくらさんはいつも目が輝いているのが印象的です。論語を通して思いやりのある優しい子に成長していったほしいと話されたお父さんは、包容力の豊かな方だと感じました。

来月(5月)は、山本 桂さんと杉田 万亀子さんの大人の塾生を紹介します。